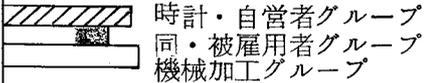


正誤表

ページ	行	誤	正
4	1	技能検定士	技能検定
10	図2の例示	機戒加工グループ	機械加工グループ
11	8	転職経験の有無(Q26)	転職経験の有無(Q26)
13	19	選択枝	選択肢
15	表5	選択枝	選択肢
14	表4		<表の右肩に%を入れる>
24	7	結びつきやすいと	結びつきやすい
26	19	なお、この	なお、以上の
28	19, 20		<行間をつめる>
30	24	中小企業従事員	中小企業従業員
31	8, 9		<行間をつめる>
31	13	るのである。	るのである(図5)。
39	図9		<表中に例示を入れる>
			 時計・自営者グループ 同・被雇用者グループ 機械加工グループ
46	下2	事上の	業上の
63	表15.下より4 左より2欄目	年功序列	年功賃金
66	25	これに肯定する	これを肯定する

序

今日、資格社会の到来を叫ぶ声が高い。それは大学の大衆化、社会の中高年化に伴う学歴の相対的価値低下に反比例するものであろう。しかし、一体資格とは、何か、その実態となるとよくわからない。

吾国の資格の多くは、当然のことながら、社会一般の安全、衛生あるいは秩序と云った視点から制定されており、本来的に言へば、学歴のように取得者個人への寄与が意図されているわけではない。

その点では技能検定はやゝ異質であるが、取得者個人への寄与の実状はやはり明らかでない。

このように、資格は学歴と対比されながら、その機能、特に取得者への寄与の実態は不明確である。

公共職業訓練と資格との結びつきの強化は、今後、能開、向上、再訓練の分野拡大と共に、益々必要とされよう。また、職訓短大の増設に伴ひ、訓練科の選定に資格の実態を反映させる要請も殖えるであろう。

本研究は、このような意味での公的資格の社会的機能の解明をこころみた訓大調査研究部富田康士研究員の研究の一部であり、当面技能検定を取上げていく。本研究が職業訓練関係の方々への情報交流の一端として役立つことを祈ると共に、この種の知見の確立に御協力を乞いたいと思う。

職業訓練大学校

調査研究部長

宗 像 元 介

調査研究報告書第42号

発行 昭和52年3月31日

発行者 職業訓練大学校

調査研究部長 宗 像 元 介

職業訓練 神奈川県相模原市相原1960

大学校 TEL (0427)61-2111

印刷 港栄印刷